

飯水の自然と自然科学読み物「千曲川」

自然調査研究委員会

〇はじめに

飯水地方は、千曲川沿いに位置し、新潟県にはいると信濃川と名前が変わる位置にあり、冬季には、たくさんの雪が降り積もる地域である。

飯水教育会自然調査研究委員会は、飯水地区における動物、植物、地質、陸水等の自然を調査研究したり、子ども及び一般向けに自然科学読み物集「千曲川」を編集・発刊したりしてきた。

〇創刊当時の頃

昭和 43 年、当時下水内教育会（現在の飯水教育会）理科研究委員会のメンバー 8 人で創刊号を発刊させた。

創刊号には次の巻頭言が載っている。

飯水地方の自然研究は、多くの先生が早くから進められてきました。そのすぐれた研究は、今までにいくつもの本にまとめられています。けれども、小学生・中学生のための読み物としては、まだ作られていません。この本は、小学校高学年から中学生のみなさんにわかりやすく、おもしろく読めるものとして書いたものです。これをできるだけ多くの友だちに読んでいただいて、私たちをとりまく自然を知り、なお進んで研究しようという手がかりになればありがたいと思います。

昭和 43 年 2 月 1 日

下水内教育会理科研究委員長 野口正治

この巻頭言にあるように、小中学校の理科教師が、地域の自然を調査・研究し、地域素材の教材開発の基礎資料にしようと取り組んできたその結果を、子ども達に「私たちを取り巻く足元の自然を知って、それを追究し、地域や広く世の中全体のために役立てたり、自らの人生に生かしたりする大人になってほしい」という願いの中で、子ども向け科学読み物集『千曲川』の編集・発行が始まった。

この本の名前『千曲川』については、次のように記されている。

「千曲川一。それは、郷土の自然の姿の象徴でもありましょう。美しい四季の変わりやうつし、あたらしい水を集めて枯れることなく、ゆうゆうと流れています。この千曲川の深い意味にちなんで、郷土の科学資料集ともいえる読み物『千曲川』を発行しました。」

(服部正志)

このように、子ども達に郷土の自然を愛してほしいという願いから、郷土の気候・風土・大地・動植物といった自然を紹介する内容になっている。

読者の対象が、小学校高学年から中学生ということで、編集にあたり、文を少しでもやさしく、深い研究をくわいてわかりやすくし、難しい漢字を用いなければならないものにはフリガナや説明を加えようとしてきた。この姿勢は現在にも受け継がれている。

創刊号の編集後記に、「私たちの計画では、この本を第 2 集、第 3 集とできるだけ長く続けて、郷土の先生による郷土の科学資料として育ててゆきたいと考えています。」とある。

この願いを受けて、昭和 43 年に第 1 集が発行されて以来毎年、休刊なしに発刊してきている。

〇現在の編集の方針

自然の宝庫と言われる信州の子ども達でさえも、身近な自然事象との触れ合いが希薄になってきている。日ごろ子ども達を前に、教室での理科学習にあたっている委員が、子ども達に身近な自然の何をどのように伝えていけばいいかをイメージしながら編集する。

子ども達をはじめ一般の方が本書を読んで、身近な自然に目を向け、自然の営みや自然環境への興味関心をもち、実際に自然と触れ合う契機としてほしいと考え編集している。